



山田 恵美 赤こんリポーター

子育てサロンで交流
子どもたちの食と生活リズムを学ぶ

9月5日、武佐町にある学校給食センターで市主催の第2回近江八幡市子育てサロン「子どもたちの食と生活リズムと一緒に考えましょう！」が開催され、市内の園・学校に通う子どもの保護者や、家庭教育支援員らが参加しました。給食センターを見学した後は、栄養士から子どもたちの睡眠や朝ご飯の働きなどについて話を聞き、給食の試食を行いました。学校と同じように参加者で配膳係を決めて配膳すると、人数分取り分けることや、時間通りに配膳することの大変なこと！重心に戻って、お喋りしながら給食を食べると、とても懐かしく感じました。安心安全に、栄養バランスを考えて作られた給食を、これからも子どもたちに楽しく食べてもらいたいです。

西野 康代 赤こんリポーター



「めずし」を知っていますか

滋賀県で熟れずしと言えば全国的に「鮒ずし」が有名ですが、「めずし」はご存じですか。「めずし」とは、滋賀県の湖東地区と湖南地区の一部だけに昔から伝わっている伝統食品のことです。「鮒ずし」は春にフナを塩漬けし、夏のご飯漬けを経て冬に仕上げますが、「めずし」は冬にハス（オイカワ）という魚を塩漬けし、夏にご飯漬けをして10日程で食べられる熟れずしです。「鮒ずし」と同じく独特の匂いと酸っぱさがありますが、こちらの方が食べやすいという人もいます。作ることでできる人も食べることができる人も限られている、夏の真っ盛りにしかできないレアな「めずし」。もし機会があれば、地元の味にチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

向坂 奈穂美 赤こんリポーター



世代を超えて伝えていく「被爆者の記憶」

『一あの日、広島で何が起きたのかー』

被爆時の光景を描いた「原爆の絵」展が、アル・プラザ近江八幡店で開催されました。会場には当時の惨状を伝える迫力ある絵画が並び、買い物客の多くが足を止め、静かに見入っていました。

絵は、被爆者の記憶を後世に残すため、広島市立元町高校の生徒たちが証言者から直接話を聞いて描いたもの。未来に記憶を継承していく貴重な取り組みです。平和を願うメッセージコーナーにはたくさんの想いが寄せられ、世代を超えたこの取り組みは、平和の尊さ、そして今を生きる命の重みを改めて気付かせてくれました。

松村 美沙枝 赤こんリポーター



子どもたちに夢を！奥井グループカップ

8月30日、市立健康ふれあい公園で「奥井グループカップ」が開催されました。5回目の今回は、地元チームの桐原スポ少をはじめ、市内外12の少年サッカーチームが各トーナメントに分かれて熱い戦いを繰り広げました。全力で戦い抜いた子どもたちの健闘をたたえ、市川九團次さんや元日本代表の森島康仁さんなど豪華なゲスト陣から、全てのチームに賞とトロフィーが授与されました。閉会式では「プロを目指している人！」の問いかけに多くの子どもたちが手を挙げる一幕も。最後はゲストとのドリームマッチもあり、夢のような大会でした！

9月12日



大正 - 昭和 - 平成 - 令和を生きた99歳

敬老の日を前に、小西市長が白寿（99歳）を迎えた市内の高齢者を訪問し、長寿をお祝いしました。今年の白寿は大正15年4月2日から昭和2年4月1日までに生まれた人で、市内には29人います。そのうち5人が代表して、今回の市長訪問を受けました。

出町在住の馬場きよさんは、孫から贈られた衣装に身を包み、歓談しながら敬老祝金と祝いの品のシャボンフラワー、祝い状を受け取りました。馬場さんは「今日は前々から言ってみたかったことを言いたい。『きんは100歳、ぎんも100歳、きよも100歳』。ほがらかにしていることや、好きなものを食べることが長生きのコツ。今日はコロッケを食べます」と話していました。

8月31日

「文化・芸術の拠点に」
文化会館がリニューアル！

約1年に渡る改修工事を終え、文化芸術の拠点施設として新たな魅力を備えた文化会館が、ついにリニューアルオープンしました。これを記念して式典と「ふるさと音楽祭2025」を開催。市内中高生によるオープニング演奏や、市文化芸術アドバイザーによるクラシックコンサート、市民参加型の大合唱や抽選会、またカフェやキッチンカー、地域おこし協力隊によるワークショップが開かれ、広場には巨大なバルーン状のアート作品が展示されるなど、子どもから大人まで多くの市民が楽しんでいました。



8月21日

電気工事工業組合が
ポータブル電源用ソーラーパネルを寄贈

滋賀県電気工事工業組合から、防災協定締結先である本市をはじめ、滋賀県や県内13市6町に1式ずつポータブル電源用ソーラーパネルを寄贈いただきました。防災行政に対する寄付は、平成26年度の防災用アンプ付きマイクや平成27、28年度のLED強力ライトセットなど、12年以上続けて行われています。同組合の鹿野敏夫理事長は、「このパネルは有事の際にも充電できるので、使い勝手が良いと思います。市で有効に活用していただければ」と話していました。

8月20日

祝！累計500回
感謝の言葉を支えにコツコツと

白鳥川の景観を良くする会（景観隊）が毎月3回行っている定例活動が、累計500回の節目を迎えました。今までの労いと今後の活動継続を確認するための場には、小西市長や山本市議会議長らも駆け付け、これまでの活動に感謝を伝えました。景観隊は、白鳥川の整備・美化活動のほか、桜ぼんぼり祭りの開催や鯉のぼりの設置、小学校への環境学習の実施など、「地域の景観を後世に残す」ことをモットーに活動を続け、来年には20周年を迎えます。景観隊代表の佐藤成宣さんは、「通りがかった人が『川が見えるようになって、前と全然違う』『鯉のぼりを見て元気になった』などと声をかけてきてくれることが本当にうれしい。これからも活動を続けたい」と話していました。